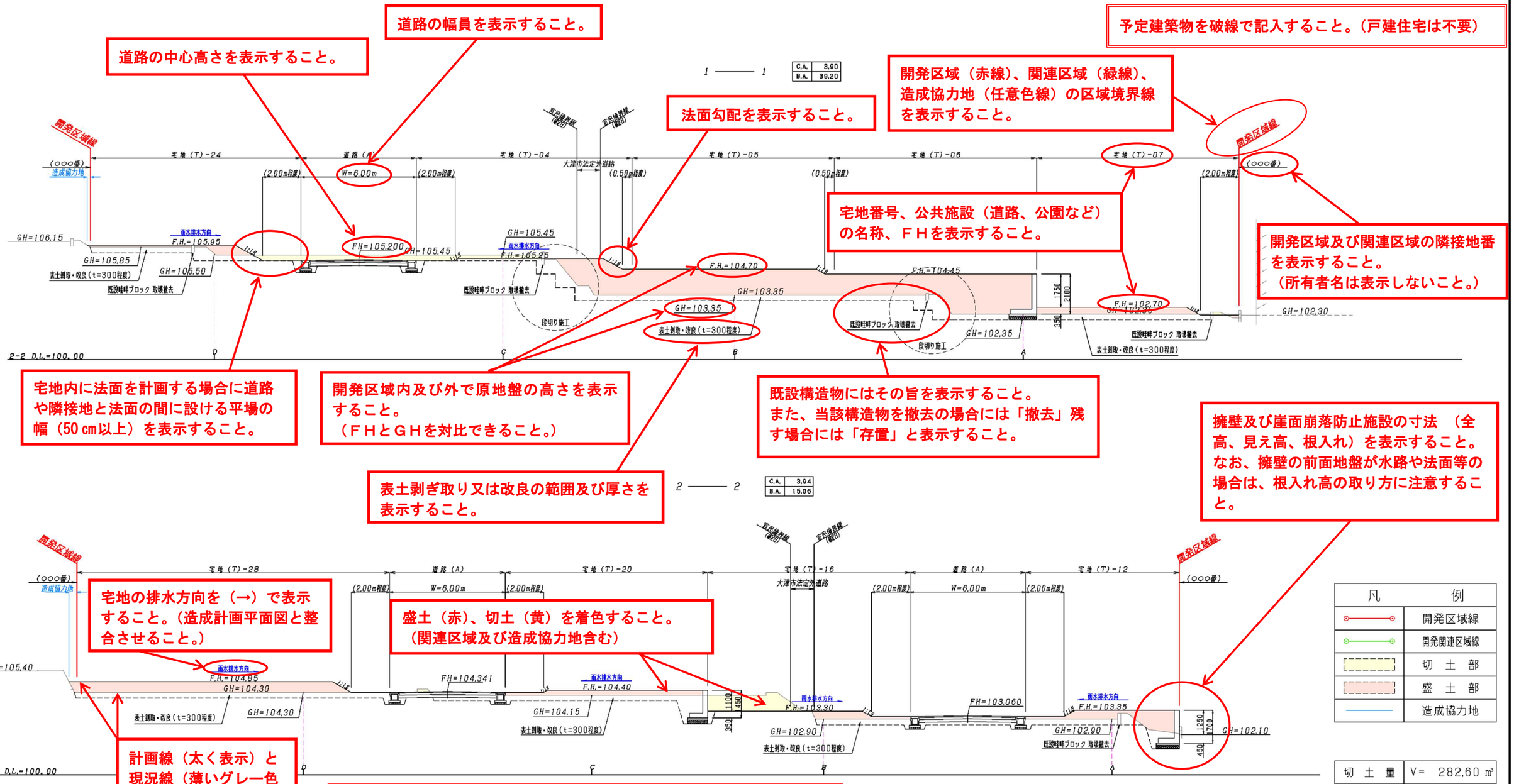

道路の幅員を表示すること。

道路の中心高さを表示すること。

予定建築物を破線で記入すること。（戸建住宅は不要）

法面勾配を表示すること。

開発区域（赤線）、関連区域（緑線）、造成協力地（任意色線）の区域境界線を表示すること。

宅地番号、公共施設（道路、公園など）の名称、ＦＨを表示すること。

開発区域及び関連区域の隣接地番を表示すること。
（所有者名は表示しないこと。）

宅地内に法面を計画する場合に道路や隣接地と法面の間に設ける平場の幅（50 cm以上）を表示すること。

開発区域内及び外で原地盤の高さを表示すること。
（ＦＨとＧＨを対比できること。）

既設構造物にはその旨を表示すること。
また、当該構造物を撤去の場合には「撤去」残す場合には「存置」と表示すること。

表土剥ぎ取り又は改良の範囲及び厚さを表示すること。

擁壁及び崖面崩落防止施設の寸法　（全高、見え高、根入れ）を表示すること。
なお、擁壁の前面地盤が水路や法面等の場合は、根入れ高の取り方に注意すること。

宅地の排水方向を（→）で表示すること。（造成計画平面図と整合させること。）

盛土（赤）、切土（黄）を着色すること。
（関連区域及び造成協力地含む）

計画線（太く表示）と現況線（薄いグレー色などで表示）を重ねること。

凡	例
	開発区域線
	開発関連区域線
	切　土　部
	盛　土　部
	造成協力地

切　土　量	V＝　282.60 ㎥
盛　土　量	V＝3193.37 ㎥

各図面共通事項

- 方位、縮尺を表示すること。
- 区域界を明確に（実線で太く）表示すること。（開発区域（赤線）、関連区域（緑線）、造成協力地（任意色線））
- 図面名、図番、作成日、作成者等を記入すること。
- 各種平面図において、現況道路名、有効道路幅員、河川名、区域内外の現況地盤高等を表示すること。また、山林や丘陵地などの傾斜地の場合は、２ｍ毎の等高線を表示すること。
- 現況平面図以外の各種平面図について、周辺住宅の所有者名等の個人情報は表示しないこと。
- 琵琶湖付近の場合は、宅地の高さをＴＰ＋８５．８７１ｍ（ＴＰ＋８４．３７１＋１．５ｍ）以上で計画すること。
- できるだけＴＰ表示で作図すること。

別紙⑤に示す特記事項を表示すること。

施工上の留意事項
- 有害な沈下を防ぐため、盛土工の着手前に次のことに留意すること。
  1．樹木の根・雑草、既設構造物等がある場合は除去及び処分について適切な処理を行うこと。
  2．現地調査、土質調査等によって原地盤の把握を行い、軟弱地盤対策や湧水等による排水対策が必要な場合は、事業者もしくは設計者に報告のうえ、対策工を検討すること。
- 盛土材料は、良質土（砂質土以上）とし、次のことに留意すること。
  1．一回の敷均しを概ね０．３ｍ以下に設定し、均等かつ所定の厚さ以内に敷均すこと。
  2．盛土材料、工法等に応じた適切な締め固めを行うこと。
- 現況地盤面から深さ０．３ｍまでの表土は、剥ぎ取り又は改良を行うこと。
- 既存擁壁の水抜穴部が盛土により埋まる場合は、吸い出し防止材や透水材（ＲＣ等）により、閉塞しない処理を行うこと。
- 現況地盤面の勾配が１５°（１：４．０）以上の傾斜地盤上に盛土を行う場合には、盛土の滑動及び沈下が生じないように原地盤の表面土を十分に除去するとともに、段切りを行うこと。

事業名	○○○○事業
事業場所	大津市○○○一丁目
事業者	○○株式会社
設計者	○○株式会社 大津　太郎
設図年月日	令和 ○年 ○月 ○日
縮尺	S=1:100
図面名	造成計画縦断面図
図番	4